

第3章 施策の展開方向

③ 畜産

【現状】

- ・ 畜産物の価格は比較的堅調に推移しておりますが、依然として肥育素牛価格や配合飼料価格が高値で推移していることから、畜産経営の環境は厳しい状況にあります。
- ・ 畜産農家の多くが高齢であり、農家戸数は減少傾向にあります。
- ・ 現在の佐賀県食肉センター（食肉処理施設）は老朽化が進み、また、輸出対応施設として認定されていませんでしたが、新たな佐賀県食肉センターが令和5年度の完成に向けて建設中です。
- ・ 高病原性鳥インフルエンザが県内で発生（H27.1月、H29.2月）しており、豚熱が国内で発生しています。

【課題】

- ・ 生産コストの低減、生産性向上の取組等を一層強化する必要があります。
- ・ 高品質な県内畜産物の需要を拡大するため、国内外の市場や実需者が求める高度な食肉処理が可能となる施設が必要であります。
- ・ 悪性の家畜伝染病を発生させないよう農場の防疫対策を徹底し、万一発生した場合は、まん延を防止するため迅速な防疫措置を講じる必要があります。

【展開方向】

- ・ 肉用牛の繁殖基盤を強化します。
- ・ 高品質な畜産物の生産とコストの低減、生産性の向上を推進します。
- ・ 高度な衛生管理を備え、輸出にも対応可能な食肉処理施設整備を推進します。
- ・ 新たに整備される食肉処理施設を核とした畜産振興を図ります。
- ・ 悪性の家畜伝染病の防疫対策を徹底します。



県産種牛「誠華山」

【主な具体的取組】

肉用牛繁殖基盤の強化

- ・ 繁殖農家の規模拡大や繁殖肥育一貫経営^(※)の取組推進

高品質化・生産性向上・低コスト化等の取組

- ・ A I、I o T等の先端技術を活用した省力化機械の導入推進
- ・ 暑熱対策など飼養環境改善による生産性向上の取組推進
- ・ W C S（稲発酵粗飼料）専用品種の普及等による自給飼料の生産拡大と利用推進

輸出可能な食肉処理施設の整備

- ・ 佐賀県とともにE U、米国等への輸出が可能な牛処理施設やH A C C P^(※)を基本とした高度な衛生管理ができる豚処理施設の整備の推進

家畜伝染病防疫対策の強化

- ・ 鳥インフルエンザや豚熱等の病原体の農場侵入防止のための飼養衛生管理基準の遵守徹底
- ・ 万一の発生に備えた危機管理体制の整備の推進
- ・ 新たな食肉センターの稼働による人流や物流の増加に対する、家畜伝染病拡散対策の強化

※繁殖肥育一貫経営

子牛価格変動の影響を緩和し経営の安定化を図るために、繁殖（肥育素牛の生産）と肥育（肥育素牛を仕入れて肉牛として出荷するまでの育成）を1つの経営体で一貫して行う経営のこと。

※H A C C P

食品を製造する際に工程上の危害を起こす要因を分析し、それを最も効率よく管理できるよう連続的に管理して安全を確保する管理手法のこと。